

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	119600069		
法人名	株式会社メデカジャパン		
事業所名	坂戸グループホームそよ風		
所在地	埼玉県坂戸市大字赤尾1893番地1		
自己評価作成日	平成22年1月6日	評価結果市町村受理日	平成23年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=119600069&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成23年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

在宅における利用者それぞれの生活に近いものを実現していただくことを前提に、これからの人生をいかに有意義に過ごしていただくかという点に最も注力している。また、医療連携体制のうえで、協働病院、訪問医師との関係も良好に保たれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田園の中に位置する設立されて4年目を迎えるグループホームで、2つのユニットはそれぞれに雰囲気があり、スタッフは入居者の個性や意思を尊重し、今までの生活が継続出来るよう努めている。入居者は散歩に出掛ける事を楽しみとし、地域の方とのつながりも徐々に広がっている。入居者からは、出来る事は進んでしようという雰囲気を感じられる。責任者は、常に問題意識を持ち、固定観念にとらわれず、地域の方や家族、職員と意見を出し合いながらケアの見直しや課題の検討を行い、ケアの方向性を見出したいと努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念(そよ風憲章)を事務所内に掲示し、全体会議において、職員が唱和することにより、理念の実践と共有に取り組んでいる。	職員の入職時には、認知症の理解と共に基本理念を伝えている。又、毎月開かれる全体会議では、理念を唱和し、その意義を認識し、実践に生かせるよう取組み、職員も理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会の清掃活動に利用者が職員とともに参加している。また、地域の子供会行事にも参加し、近隣保育園の行事も見学参加をしている、	地域の方と共に自治会の清掃活動を行ったり、近隣で行われる天神講に招かれて子供達と一緒に遊ぶ等、交流の機会を持っている。近隣の保育園のバザー等にも出掛け、顔見知りの方が増え、散歩中に声を掛けあっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成21年7月に開催した、認知症サポーター養成講座等を通じ、地域住民から入居相談等が寄せられている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日中の施錠の点について、意見をもとめ、現在も職員間で検討中である。また、地域とのより深い関係づくりについての意見も参考にしている。	民生委員、地域包括職員、家族の参加で年2回開催し、玄関の施錠等ホームの具体的な対応について意見を聞く機会を持ち、その意見を生かす取組みを検討している。今の所、参加者は固定されている。	地域の方、自治会長等、参加者を広げる働き掛けを行い、意見を聞く場、投げかける場を更に広げる事が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	坂戸市介護事業者連絡会グループホーム部会に参加し、事例報告、介護計画等現場の意見に加え市の担当者からの意見も参考にし、事業者相互に研鑽を積んでいる。	3ヶ月に一度開かれる市のグループホーム部会に参加し、市町村の担当者から情報を得たり、事業所との意見交換を行っている。市町村への相談は、何時でも出来る関係になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。玄関は施錠しているが、利用者の外出意向を尊重し、対応をしている。	玄関の施錠について、運営推進会議でも提示し、話合ったが、まだ家族、地域の方より解錠に向けた積極的な意見が出されていない。現在、具体的方策を職員で検討中している。	今後も地域の方の協力や、家族の理解を得られるよう、具体的な対応方法を検討し、解錠に向けた取組みを続けていく事が期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会及び虐待防止委員会を開催し、職員の理解を含めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についての社内研修等に参加し、また、本年も、成年後見人研修生の受け入れを行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事に、ご家族に参加していただき、運営の参考にしている、	運営推進会議や来所時の家族より出された意見をしっかり受け止め、施設運営に生かす事が出来るよう努めている。又、より多くの家族に運営推進会議へ参加してもらえるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議のみならず、日々の申し送りの際にも意見、提案を検討、反映している。	日々の申し送り、毎月のユニット会議、全体会議にて職員から出された意見、提案等を検討し、出来る限り実現するよう、責任者は取組んでいる。職員一人一人の要望、相談等は、個人面談でも話合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課、評価を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	センター長会議、計画作成担当者・グループホーム意見交換会が定期的に開催され、加えて社内研修、外部研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	坂戸市介護事業者連絡会グループホーム部会に参加し、事例報告、介護計画等現場の意見に加え市の担当者からの意見も参考にし、事業者相互に研鑽を積んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前の実態調査、身体状況 申出書を検証し、サービス提供に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前の実態調査、身体状況 申出書を検証し、サービス提供に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設のサービスが、本人、家族にとって「その時」のより良いサービスであるか否か、十分、話し合いを持っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	文字通り、共同生活の介護であること、それぞれの人生経験を尊重し、生きがいを持った生活を支援することを基本としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族江の日常的な報告、連絡により、共に課題を共有することにより、よりよい支援方法を検証している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外泊、外出の機会を随時、自由に持っていただき、馴染みの環境の中での生活であることを、実感していただいている。	ホームとしては出来る限り面会に来てもらいたいと考えているが、来られない家族には毎月の便りや電話で様子を伝え、家族とのつながりを支援している。外泊や墓参り等の支援も積極的に行い、知人も訪ねてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者に施設内で様々な役割を持っていただき、レクリエーションの提案、利用者同士の個々の触れ合いのなかで、それぞれが尊重し合える関係を築く努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用修了者には同一法人の他サービスを紹介し、経過状況をお聞きしているかたも、いらっしゃる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとって、生きがいのある生活とは何か。本人の意向、家族の意向を尊重している。	家族の意向は面会時に直接聞いている。面会に来る事が少ない家族には電話で本人の様子を伝え、家族の気持ちも聞くようにしている。又、日々の言動や様子から思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査、身体状況申出書の検証にとどまらず、居宅、包括、病院、自治体などから情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回の申し送り、連絡帳により、利用者の1日の状況を職員全員が把握できる体制としている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンス、アセスメントを適宜行うことにより、よりよい介護計画を作成している。	職員は担当を持っているが、介護計画は計画作成担当者を中心に全員でモニタリングやカンファレンスを行い、家族の意向を踏まえて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果については、介護支援経過記録に記入し、情報を職員間で共有するために介護日誌に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者、計画作成担当者、介護職が、硬直的な介護とならないよう、ユニット会議、全体会議等において、検証を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事などに参加し、地域住民としての充実感を持っていただくよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重した、かかりつけ医の受診を支援している。	受診は本人、家族の意向に添い、協力病院、本人のかかりつけ医、往診医にお願いしている。往診は月2回あり、状態によっては誰でも往診医の診察を受け、他科受診は家族対応が基本だが、困難な場合は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録、往診記録により、看護職、介護職間で情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診等とおし、医療関係者と情報交換を行い、入院時にも、早期退院となるよう関係をつくっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取りに関する指針に基づき、医療連携体制をしき、本人、家族に同意を得、終末期のケアを行っている。	休診日でも対応可能な協力病院のお蔭もあり、終末に近い状態までホームでケアを行った方がいたが、看取りは行っていない。ホームとして、これからも家族の意向に添って支援していきたいと考えている。看取りの勉強会も行っている。	ホームとして、ターミナルケアへの取組みについて更に話合う機会を持ち、地域や家族のニーズに添えるよう、今後も取組みを続ける事が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、常時、職員が確認できる体制としている。また、救急救命講習を職員全員が受講し、不測の事態に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜想定避難訓練を行い、夜間時の職員集合訓練も行った。また、地域行事に参加し、地域住民に介護施設の認識を持っていただいている。	年2回、昼夜想定避難訓練を行っている。民生委員の参加があり、近隣の方へのホームの認識は得ている。スプリンクラーの設置も済んでいる。職員の殆どは訓練に参加出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束廃止委員会及び虐待防止委員会等でスピーチロック等の認識をもち、対応に注意している。	研修等を通して職員の認識を高めている。職員は穏やかな表情と声掛けで接している姿が見られる。入居者との関係も互いの気持ちを尊重しながらの対応を考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけ等により、本人の思いをくみ取り、本人の意思を引き出すよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者最優先であること。職員の業務はあくまで利用者の生活の支援であることを確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、更衣の支援にとどまることなく、定期的な訪問整容の活用や、女性のお化粧品等で変化を楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に食事の準備、片付け等を日常的におこなっている。行事食、出前、外食等、変化することも、利用者に好まれている。菜園での収穫も、楽しみにしていただいている。	法人の栄養士が作った毎日の献立はあるが、行事食や入居者希望の食事をホーム独自で作る場合もある。食事の準備、片付けを積極的に行う入居者が多い。ホームの菜園で入居者と職員が収穫した野菜を調理に取入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内管理栄養士作成の献立により栄養摂取の管理を行い、水分摂取量も日々管理している。また、状態変化について、適時、対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力、自立での排泄を支援している。オムツ使用の利用者にも、時間誘導等を行い、自立排泄の支援を行っている。	入居者の状態に合わせて個別に対応している。昼夜出来る限りトイレ誘導を行い、現状が維持出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、繊維質食品の摂取や、軽運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人が、自分の意志で入浴しているとの実感を持っていただくよう支援している。	週3~4回、一日おきの午後入浴だが、入居者の状態により、臨機応変に対応している。行事等で入れない時は、次の日の午前に入る場合もある。ゆず湯や菖蒲湯等季節感のある入浴も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由な睡眠を取っていただくことはもちろんだが、身体状況に応じ、随時、休息の必要性を検証している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理場所に、その目的を記載し、いつも確認できるようしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持っていただいたり、楽しみごとを持っていただいたり、季節感を感じていただいたりしながら、日々生活をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	極力本人の意思に沿った形で、散歩を行っている。また、買い物、ドライブ、観覧などを行っている。	近隣への散歩は毎日出掛けている。季節の花を見に法人のバスを借りて観梅に出掛ける事もある。同じように外食にも出掛ける。本人の希望を尊重し、希望に添えるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力量に応じた金銭管理を行い、所持、使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にお使いいただいている。手紙についても支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた室内装飾や、行事ごとの写真を、利用者と共に掲示している。	2階ユニットの廊下には入居者手作りの装飾や写真が飾られ、入居者は作る事を楽しみにしている。フロアには食事のテーブルの他、くつろげるソファのスペース、1階にはウッドデッキがあり、ゆったりと過ごす事が出来る空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが、自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、入居後も本人が使い慣れたものを、お持ちいただいている。	居室には備え付けのクローゼットがあり、十分な収納が出来るようになっている。入居者は自由に持って来た調度品で部屋を整え、個性が感じられる居心地のよい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分の手すりを利用し、歩行訓練を行い、バルコニーより、自由に菜園に出ている。		